



悠紀だより



平成30年9月28日 発行責任者 校長 野中るみ子

本校の学力・学習状況をお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査は4月17日（火）に、全国の小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象に実施されました。本校でも、6年生46名が参加しました。

調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・算数・理科）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、各教科もA：主として「知識」に関する問題と、B：主として「活用」に関する問題に分かれています。（理科は分かれています。）

この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導内容・指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的とします。

去る7月31日（火）に文部科学省から本校の結果が送られてきました。その結果を受けて調査結果の分析を行ってまいりました。この度分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。

なお、調査に参加しました6年生一人一人には、個別懇談会を利用して個人票をもとに、具体的に課題等について説明していく予定です。よろしくお願ひいたします。

分析結果の概要

1 本校の状況（全国との比較）

本校の結果は、国語A、国語B、算数A、算数B、理科の5科目の内、国語Aは全国平均を大きく上回り、算数A、算数B、理科ともに全国平均をやや上回りました。国語Bは、全国平均とほぼ同等ですがやや下回りました。

この調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもあるように、全国平均正答率のプラスマイナス5ポイントの範囲にあるものは、ほぼ同等であると考えています。

2 教科ごとの状況と課題（○は結果が良好なもの、□は課題と思われるもの）

国語

A 主として「知識」に関する問題

- これまで本校では、漢字を読む力や書くことの定着が不十分であったり、故事成語についての正確な意味や使い方の理解が不十分であるという結果が出ていたが、本年度は共に正答率が全国平均を上回っている。
- 登場人物の心情について、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して想像を豊かにしながら読みとる力は全国平均を大きく上回っている。
- 主語と述語を適切に照応させて、文を正しく書く設問では、正答率が全国平均を大きく上回っているが、主語が人ではなく「反省点は」になっていたり、述語に当たる部分が、「用具の手入れをあまりしませんでした」というように動作を表す表現になっていたりしたために、主語と述語との関係を適切に捉えることができない児童がやや多い。
- 何のために調べるのか、何について調べるのかを明らかにし、目的に応じて必要な情報を捉えて読む問題では、全国平均とほぼ同等であるがやや下回っている。イラストに目がいってしまい、

文章には着目することができなかつたり、目的と「ポイント」に書かれている言葉に関係付けて捉えることができなかつたりしている。

B 主として「活用」に関する問題

- 推薦文では、構成を工夫したり、他のものと比較して適切な内容を取り上げたりして、詳しく書くことで、よさが伝わることを捉える問題では、正答率が全国平均を上回っている。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、正答率は全国平均を上回っているが、指定された文中の言葉が使われていなかったり、2つ書くところが1つだったり、問題の中であげられた条件を満たしていない解答が多い。
- 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることができるかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を下回った。文章の内容がどのような役割をしているか、またどのような効果があるかを十分に捉えることができていない児童が多い。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかき読むことができるかどうかをみる問題では、全国平均を下回った。問題の条件である具体的な叙述を取り上げずに、「自分の力で、やれるところまでやってみよう」という一文や、湯川博士の行動や考えに対する自分の考えを書いているものが見られた。

算 数

A 主として「知識」に関する問題

- 問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表す問題では、全国平均を大きく上回っている。除数が小数の場合の1に当たる大きさを求める式を理解しており、小数の除法の問題場面において、二つの数量の関係を数直線に表すこともできている。
- 小数の除法の意味について理解しているかどうかをみる問題は、正答率が高い。
- 180° の角の大きさを理解しているかどうかをみる問題では、正答率は100%。
- 横、縦、高さの三つの要素を用いて空間の中にあるものの位置を表す問題では、2つまでは正しく数えることができていたが3つめを間違える解答が多い。
- 円周率の意味や、直径の長さや円周の長さの関係について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が全国平均より低く、直径の長さや円周の長さの関係や、円周率の意味についての理解が不十分である。

B 主として「活用」に関する問題

- 敷き詰め模様の中から図形を見だし、その構成要素や性質を基に、一つの点の周りに集まった角の大きさの和を言葉や式を用いて記述する問題の正答率が高い。
- 複数の情報を解釈し、数量の關係に着目して、条件に合う時間を求める問題の正答率が高い。
- 示された考えを解釈し、条件を変更した場合の数量の關係を考察して、分配法則を用いた式に表現する問題の正答率が高い。
- 事象を観察して、規則性を見だし、条件に合う事柄について適切に判断する問題の正答率が高い。
- 条件を変更した場合について、考察した数量の關係を、言葉と数を用いて記述する解答の正答率がやや低い。
- 折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、根拠を明確にして式や言葉を用いて記述する問題の正答率が低い。
- 日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりする問題の正答率が低い。

理 科

- 流れる水の石や土を積もらせる働きについて、科学的な言葉や概念を理解しているかどうかをみる問題の正答率が高い。
- 正答率から、乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを理解している児童が多い。
- 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題の正答率が高い。
- ろ過をする際にガラス棒を使用することの意味の理解を伴った、適切な操作が十分に身につく

いない児童がいた。

- 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用することができない児童が多い。

3 教科における主な改善点

国語

- ※「何のために調べるのか」、「何について調べるのか」など、調べる目的や事柄を明確にした上で、本や文章を選び、その中の記述や説明から課題を解決するために中心となる語や文を捉え、必要な情報を見つけてまとめることができる力を育てる。
- ※物語を読む際は、登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、そのことによって、内面にある深い心情も合わせて捉えることができるように指導する。
- ※朝読書や読み聞かせなどを利用して多くの物語に触れる機会を増やすとともに、読書活動のさらなる推進、目次や索引を活用した本を効果的に読む指導も進める。

算数

- ※グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにするために、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈することができるようにする。
- ※グラフから読み取った情報が適切かどうかを検討したり、考察した結果から見いだした新たな問題を解決したりするために、グラフを新たに作り、それぞれのグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察することができるようにする。
- ※数量の関係を見いだして考察し、さらに、その数量の関係がほかの場合でも成り立つことを確かめて、確かめた数量の関係を的確に表現することができるようにする。
- ※日常生活の問題の解決のために、複数の情報を解釈し関連付けて論理的に考察し、判断の理由について根拠を明確にして説明することができるようにする。

理科

- ※器具の適切な操作方法を身に付けることができるようにするためには、器具の操作の手順の理解だけでなく、器具を使用する目的や操作の意味を明確にしてから操作を行うようにする。
- ※複数の実験結果を分析し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、自分や他者の予想に基づいた実験結果の見直しを行い、複数の実験結果などから多面的に分析し、考察することができるように指導する。
- ※学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにするために、既習の内容や生活経験と関係付けて話し合う場を設定する。

4 質問紙調査の主な特徴（全国との比較）

生活習慣について

- 「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童の割合は、全国平均をおよそ5ポイント上回り、「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合も、全国平均を35ポイント以上上回っている。
- 「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は、全国平均を25ポイントほど上回っている。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童の割合は、全国平均を20ポイントほど上回っている。
- 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合と、「毎日同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合の差が10ポイントほどある。睡眠時間が一定では無いと思われる。
- 普段の1日あたり読書をしている時間は、およそ70%が30分以上で、全国平均を30ポイントほど上回っている。
- 放課後や週末の過ごし方では、家族や友達といることが多いと答えた児童の割合が高い反面、TVやゲーム、インターネットをしていると答えた児童も多い。
- 「少しでも新聞を読む」と回答した児童の割合は、全国平均を20ポイントほど上回っているが、40%の児童が新聞を全く読んではいない。
- 「テレビやインターネットでニュースを見る」と解答した児童は、全国平均を7ポイントほど上回っている。

学習に対する関心・意欲・態度について

- 「理科の勉強は大切だ」と答えた児童は、全国平均を40ポイント上回っている。
- 「学習したことが、将来、社会に出たときに役に立ちます」と答えた児童は、算数で10ポイント、理科で20ポイント上回っている。
- 「算数の勉強は好き」と回答した児童は全国を20ポイント上回り、理科においては100%である。
- 「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりした」と答えた児童は、およそ60%と全国平均を上回っているがやや少ない。
- 「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した児童は、全国平均並みではあるがすこし少ない。

5年生までに受けた授業について

- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童が、全国平均を10ポイント上回る。
- 「自分の考えを発表する機会では工夫をして発表した」と回答した児童は、全国平均を10ポイント上回る。

家庭学習について

- 「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は、100%である。
- 普段1日あたり家庭で勉強している時間は、およそ98%が30分以上で、75%以上が1時間以上している。全くしていない児童はいない。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童は、全国平均を15ポイントほど上回っている。
- 「自主学習において、教科書を使いながら学習している」と回答した児童が、全国平均を20ポイントほど上回った。

地域とのかかわりについて

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童の割合は、全国平均を25ポイント上回っている。

5 質問紙調査からの改善点

※朝起きる時刻が規則的で定着しているのでこれを継続し、寝る時間も決まった時刻にすることで睡眠時間が一定になるように家庭と連携して取り組む。

※読書好きの児童が多いので、読み聞かせなどをこれまで以上に多く取り入れ、朝読書・図書館での授業のさらなる改善によって、より一層の読書活動の推進に努める。

※授業の中で自分の考えや意見を発表できる機会を増やし、他者と情報交換をする場を多く設定した授業改善に取り組む。

---家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着---

家庭での学習習慣の定着に御協力を！

---家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着-----家庭学習の定着---

質問紙調査の結果から、本年度の児童の実態は、朝起きる時刻が一定であり、基本的な生活習慣が身についており、学習に対する関心・意欲・態度の意識も高く、読書をするのが大好きであり、自分の夢や目標を持って前向きに生活している姿が浮かんできました。これまで学校と家庭が協力して取り組んできた結果だと思えます。また、本校の特徴でもある、読書活動の推進に取り組んできたことは、あらゆる学習に良い影響を与えているということが明らかです。今後においても、学校や家庭で大切にしていきたい活動です。

また、学校以外で勉強している時間は全国平均に比べて長いのですが、まだ100%になってはいません。これからも計画的な家庭学習への取り組みや学習の予習・復習への取り組みを期待しています。学校でも児童が進んで家庭学習に取り組めるよう、課題の出し方を工夫し改善して、自主的に学習に取り組むことができるように働きかけていきたいと考えます。各御家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるよう、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

【この学校だよりは本校ホームページではカラー版でご覧になることができます】